

「三重の木」で  
家を建てた人たち

実例集 Vol.6



「三重の木」利用推進協議会

# 1

鈴鹿市 Yさん邸の場合

## 田園風景を望む大窓からの発想 シンプルで使い勝手のいい家

設計 / 久安典之建築研究所、納材 / (株)山甚、施工 / (株)大野工務店

片側の屋根を付け忘れたような、鋼板張りのモダンなフォルムからは想像しにくいのが、構造材に県産スギ、ヒノキを用いた木造住宅である。一階東面には大開口の掃き出し窓があり、ウッドデッキから田園風景へと、スキップしながら視界が開けていく。二階の開口は、中央が吹き抜けで、左右にテラスが設けられ、閉じた印象を受ける外観とは裏腹に、実はとても開放的なレイアウトとなっている。

「無駄なコストをかけないシンプルな家が理想でした。間仕切りが少なく、家具をあまり置かないライフスタイルを目指してましたから。住宅展示場にはピンとくる家が見つかったので、以前新聞記事で知った久安さんに連絡したんです」

建築家は、のびやかな風景を切り取る大窓（フレーム）から発想を広げ、床は素足で歩けるスギ板張りに、壁と天井は白くペイントし、外観を土蔵のようなモノトーンで覆うことにした。

ステンレスのフレームキッチン、作り付けの書棚など、すっきり整理されたリビング・ダイニングに、窓毎に色の違うロールスクリーンがアクセントを添える。

朝日を望むテラス、読書好き夫妻ならではの書棚を三面張りした書斎など、とても快適で使い勝手のいい、道具箱のような家となった。



スギ板張りのリビング。東面に大開口、西面には同寸の採光窓が穿たれ、色違いのロールスクリーンがアクセントを添える。

通りかかる人が皆、屋根はどうなっているのかと不思議がる、シンプルかつ特徴的な外観。



1. 底を出す代わりに、エントランスを穿ませた玄関は蔵のイメージ。
  2. リビングからウッドデッキ、四季折々の田園風景へと視線を誘う掃き出し窓。
  3. サニタリーの床もスギ。暗くて野暮ったくなるのを避けるため、壁面や天井は白くペイントし、柱や梁などで木を効果的に現している。
- 久安典之建築研究所 TEL.059・397・6537  
<http://www.cty-net.ne.jp/nsm>  
 ●建築坪単価 約65万円(外構含む、設計・監理除く)



# 2

津市 Tさん邸の場合

## 土を練り、竹小舞を編み、荒壁を塗り 施主参加型の手づくり住宅

設計・施工／(有)高橋建築工房、 納材／(有)大和商事

「設計の段階では、私の趣味部屋さえ造っても  
らえたら、あとは妻が暮らしやすい家にと  
思ってたんですが、やってみると面白く  
ってね」  
津市南部の団地に建つTさん邸は、オー  
ナーが積極的に家づくりに参加した。  
壁土の準備では、建築地横に「土のプ  
ール」をつくり、ワラを練り込んで半  
年程寝かせた。次に土壁の下地とな  
る竹小舞の材料を、大工と一緒に近  
所の竹藪から調達。竹編みや荒壁塗  
りは、左官に手ほどきしてもらいなが  
ら、奥さん、幼い息子さんとともにチャ  
レンジしたという。  
手づくり感あふれる住まいは、スギ  
の縦板と、大津壁とのコントラストが  
美しい。雨どいがないのは、雨滴が  
庭の砂利に染み込むさまを楽しむた  
めと、なんとも風流だ。  
スギ板張りのリビング・ダイニングは、  
吹き抜け。造り付けの食器棚は間仕  
切りを兼ねており、背後に洗面所と浴  
室、手洗いが配されている。二階に  
は寝室と子ども部屋があり、どち  
らも木の床と天井、土壁で構成され  
ている。  
「自然素材の家にして満足してい  
ます。天気や時刻、経年によって表  
情を変えてくれるから」  
光や風を優しく受けとめ、人と同  
じように、木や土が深呼吸する住ま  
いは、きっと子どもへの心身を健  
やかに育むことだろう。



太陽光を部屋の奥まで届けるべく、深い軒の一部はガラス張りに。



外装は、橋渡仕上げのスギ板を縦張りに。玄関前の風除け塀は、施主も土塗りに参加した。



1. たたき土間と土壁の玄関。天井には簾を張って涼やかさを演出。  
2. 小屋裏を現にした子ども室も、ヒノキ柱とスギ板張り。  
3. 吹き抜けで開放感たっぷりのリビング・ダイニング。スギ、ヒノキのやわらかな色合いに、艶めくケヤキ柱が存在感を主張する。  
●(有)高橋建築工房 TEL.059・252・8808  
<http://www.takahashi-kk.net/>  
●建築坪単価 約60万円

# 3

津市 Aさん邸の場合

## 子煩悩な大工さんが建てた 頑健なスギの棟木を見上げる自邸

設計／(株)エラ・プラン、 納材／小坂材木店、 施工／巧建築

いつかは自らの手で思いどおりの家を建てようとして、大工のAさんはあちこちの土地を探しまわり、御殿場海岸の近くに新居を構えた。

白黒ツートンの二階家にお邪魔すると、クスノキの華やかな香りに包まれた。上がり框と靴箱が同素材で仕立てられているのだ。

通されたリビング・ダイニングは、キッチンの上部が吹き抜けで、階上から注ぐ光を白壁が反射して明るく開放的。太い構造材や、厚い無垢の床板はすべて県産のスギ。見た目が上品なヒノキも候補に考えたが、素朴であたたかみのあるスギを選んだという。

二階には東に子ども部屋、西に奥さんの部屋があり、どの部屋からも立派な棟木を見上げることができる。

子ども部屋には、父親の並々ならぬ愛情が注がれている。無垢の一枚板を渡した勉強机。壁のコルクボードなど、手づくりの家具が色々。

「丸太や角材が組み合わされ、建築用ネットが張られた空間は、子どもたちにはフィールド・アスレチックに見えるんでしょうね。息子の友達が来ると、柱や梁を伝って遊んでいます」

子煩悩な大工さんが建てた木の住まいは、のびのび子育てするには理想の環境である。



1. 屋根を支える立派なスギの棟木。日焼けして落ち着いた色目に変化していく様子が楽しめる。
2. クールなモントーンの外観は、奥さんの希望から。今後、二階にベランダが、一階に濡れ縁が設けられる予定という。
3. 陽当たりのいい二階ホールは子どもたちの遊び場。養の子貼りの窓際と、ネットの先が吹き抜けているので、上下階の気配が通じる。

●(株)エラ・プラン TEL.059・238・0955

<http://www.eraplan.com>

●建築坪単価 約70万円

柱や梁、床など、ふんだんにスギが使われたリビング。木材は手刻みで、全物を極力使わない伝統工法で組み立てられている。

# 4

伊勢市 Mさん邸の場合

## 太陽光を館内に行き渡らせたい 格子壁が印象的なスギの家

設計/shu建築設計事務所、企画/藍住空間プランニング  
納材/(有)梅田林業、施工/(株)ウメダハウジング

神宮の森を借景にするMさん邸は、閑静で緑豊かな申し分のない立地だが、冬場、平地より少し早く太陽が山陰に隠れてしまうのが唯一の難点だった。

そこで建築家が第一に考えたのは、陽が高いうちに太陽光をなるべく取り込むプランニング。「リビングダイニングを南北いっぱい広げ、上部を吹き抜けにして日溜まりをつくりました。薪ストーブも設置してあるので、ワンルームのように暖気が家全体へ行き渡り、夏場は風が自在に駆けめぐります」

その分、個室は小さめになるが、居心地の良いリビングに家族が集まるのは必定である。目を引くのが、広いリビングを二分するようなスギの格子壁。耐力壁や階段の受けとして機能するばかりか、プライベートルーム空間を目隠しするとともに、飾り棚や背もたれなどにも使え、その上開放感はまったく損なわれない。

「みえ木造塾」塾長でもある建築家は、構造材はもちろん、内外装から外壁にいたるまで県産スギをふんだんに用いた。外壁に保護塗料を、ヒノキ集成材製のキッチンにオーリーブオイルを、自らの手で塗るといふオーナー夫妻だからこそ実現した、里山のような温かい住まいである。



1. スキップした和室へとつながる、リビング奥のダイニング。
2. 洗面台はヒノキ集成材で手づくり。
3. ヒノキ張りの浴室は、風通しが欠かせない。
4. 腰下にスギ板を縦張りする外観は、総二階のオーソドックスなスタイル。現しの小屋裏を必要以上に大きくしないよう、屋根勾配は緩くした。外壁と濡れ縁を雨から守るため、軒は深い。

●shu建築設計事務所 TEL.0596・52・6400

<http://shu-arch.com>

●建築坪単価 約65万円(設計・監理、外構除く)

二階廊下から吹き抜け方向を望む。全物を極力廃した木組みが美しい。白壁は土佐和紙貼り。

# 5

大台町 Tさん邸の場合

## パブリック棟とプライベート棟が ヒノキの廊下でつながる白い家

設計/プラス設計室、 納材/宮川森林組合・小牧木材(株)、 施工/加藤工務店

もとは茶畑だった緩やかな傾斜地に立つと、正面に緑の山並みが望めた。太陽の光も、風の通りも申し分のないロケーションだ。これらを生かさない手はないと、建築家は、二つの棟が中庭をコの字に囲むプランを提案した。

コンクリートのファサードに守られる玄関から屋内へ入ると、白い壁と天井がまぶしいパブリック棟へ至る。二方向の窓から光が注ぐリビング&ダイニングキッチンには奥さんの希望があれこれと反映されており、その一つが節無しヒノキの床。厚さ十八ミリの無垢板が、ドイツの自然塗料のクリアで仕上げられており、自然な木肌が上品で清々しい。

寝室と子ども部屋のあるプライベート棟へは、学校のような長い木の廊下をたどって行く。この廊下は二つの棟を結びつつ、水回り(洗濯室・浴室・手洗い)を側面に並べる長屋にもなっている。

「木造平屋という私たちの希望に、それ以上の工夫を凝らしていただき満足しています。夏は太陽の光が入りすぎてクーラーを使う日もありますが、冬は窓を閉めればまるで温室です」

木の床が気持ちいいので、子どもたちは裸足で走りまわっている。



アイランドキッチンのおさまるダイニングは、山並みを眺めながら家事ができる。ヒノキの床は、廊下と同素材で一体感がある。



陽光も確保するため、南向きに中庭を開放して建物も配置。片流れ屋根の左右棟を、中央の水屋棟がむすぶ。敷地を囲む焼きスギの板塀は、ご主人が自らバーナーで表面を炙った。



1. 将来は2室に仕切れる子ども部屋は、床と天井を木に。
  2. プライベート棟側からキッチン方面を望む。白壁のところどころに小さな飾り棚が設けられており、ちょっとしたギャラリーの雰囲気も。
  3. 子どもの昼寝やおむつ替えに重宝する和室は、来客時には宿泊室となる。
- プラス設計室 TEL.0598・42・5363 <http://www.za.ztv.ne.jp/plus>  
●建築坪単価 約66万円

# 6

津市 Aさん邸の場合

## 茶室、坪庭、井戸のある古民家を 真新しいスギでセンスよく再生

設計・施工／(有)克工務店、 納材／(株)山西

たたずまいは古民家然としているのに、細部のつくりは現代的。前庭の井戸には「自由にお使い下さい」の札が掲げられている。

津市一身田の古家をリフォームした、二十代のAさん。以前、実家をリフォームした際に、一時移り住んだ町並みが忘れられず、希望になう空き家をずっと探していたという。

購入時は、工務店の設計士に「不気味」と言わしめるほど傷んでいたが、利用できる材や意匠は残し、構造材から床、天井をまっさらな県産スギで造り替えると、田の字の間取りはみごと現代的でおしゃれな空間に甦った。

「いろいろ木材を見比べてみて、節が多くても温かみのあるスギにしました。床の蜜ろうワックスは自分たちで塗ったんですよ。壁もいずれ二人で塗ろうと考えてます」

購入後に分かったことだが、この家の前住人は茶道家で、生徒用の裏玄関をはじめ茶室や水屋、坪庭を備えていた。くだんの井戸は、居間の下から出たものを、埋めずに玄関先へと移設。環境の町らしく、冷たい水が豊富に湧き、ご近所で重宝されているという。

取り壊して新築するのではなく、町並みの一部となった古民家を地元材でリフォームし、活かす知恵とテクニックは見習いたい。



1. ブロック塀を取り壊し、木の板塀にチェンジしただけで、住まいの印象が町に対して開かれたように感じる。あわせて、全面モルタルだった外装は、腰下にスギをヨロイ張りにして、おしゃれな町家カフェのように。
2. 気持ちいい風が吹き抜けるスギの廊下には、夫婦で蜜ろうワックスを塗った。自然素材由来なので、木の呼吸をさまたげず、木肌の美しさを保ちながら表面を保護してくれる。

●(有)克工務店 津市新東町塔世130 TEL.059-228-0773  
<http://www.katsu-koumuten.co.jp>



古材の梁とまっさらなスギが調和したリビングダイニング。淡いウグイス色の壁が陽光を反射し、部屋を明るく広く見せる。



# 木の家は高い？ そんなことはありません。

「木の家を建てたい」「内装に木をふんだんに使いたい」と思われる方は多いでしょう。でも、「木の家は高い」「国産材はぜいたく」というイメージをお持ちの方は少なくないようです。それは本当でしょうか。一般的な木造住宅の建築費に占める木材費の割合は、全体の10数%ほど。床、壁、天井から外壁まで、木をふんだんに使った家でも、実は20%程度にしかありません。特殊な銘柄木を多用しない限り、木の家は決して高くはないのです。

## 実際の施工例から、木造住宅に占める木材費の割合を計算してみましょう

**A邸** 柱、梁などの構造材、床板には「三重の木」を使うものの外壁は鋼板、天井や壁はクロス貼りとした一般的な木造住宅

A邸建築費用内訳	
仮設工事	780,000円
基礎工事	1,110,000円
木材費(構造材)	1,900,000円
(板材・造作材・家具材)	850,000円
木以外の建材	900,000円
大工手間等	2,670,000円
屋根工事	560,000円
建具工事(金属・木材)	1,500,000円
板金・樋工事(外壁含む)	630,000円
左官工事	560,000円
内装・塗装等工事	910,000円
電気設備工事	1,200,000円
雑工事(キッチン・バス等)	1,260,000円
給排水等工事(浄化槽含)	980,000円
諸経費	1,700,000円
合計	17,510,000円

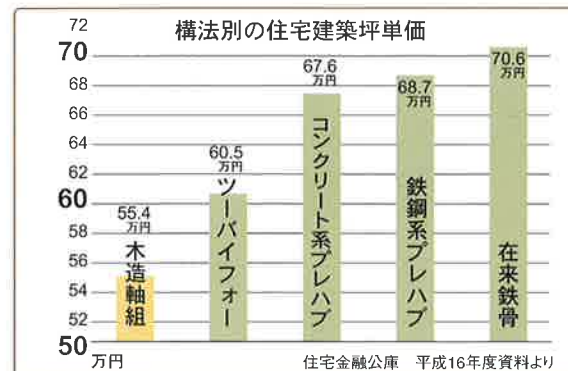
※設計費はのぞく

建築床面積 112㎡(34坪)	木材費割合
参考坪単価 51.5万円 (消費税別)	<b>15.7%</b>
	・275万円 1751万円



## 「三重の木」認証材とは

安心して三重県産材をお使いいただけるよう、独自の認証制度を定め、品質・寸法・乾燥の規格基準に基づき、「三重の木」利用推進協議会認証の製材工場が製材・加工した建材です。



**B邸** 柱、梁などの構造材に「三重の木」を、さらに内外装から浴室やトイレ、キッチンまでふんだんに三重県産スギ・ヒノキを使った家

B邸建築費用内訳	
仮設工事	880,000円
基礎工事	1,150,000円
木材費(構造材)	2,350,000円
(板材・造作材・家具材)	2,120,000円
新建材	1,040,000円
大工手間等	3,440,000円
屋根工事	570,000円
建具工事(金属・木材)	1,770,000円
板金・樋工事	750,000円
左官工事	690,000円
内装・塗装等工事	380,000円
電気・ガス工事	910,000円
給排水等工事(浄化槽含)	1,030,000円
諸経費	2,590,000円
合計	19,850,000円

※設計費はのぞく

建築床面積 125㎡(37.74坪)	木材費割合
参考坪単価 52.6万円 (外構工事のぞく・消費税別)	<b>22.5%</b>
	・447万円 1985万円



- 品質…日本農林規格と同等またはそれ以上の品質基準を有する
- 寸法…日本農林規格と同等またはそれ以上の精度で加工
- 乾燥…十分に乾燥させることで、収縮による狂いなどを大幅に低減

※日本農林規格(JAS)は農林物資の規格化および品質表示の適正化に関する法律(昭和25年5月11日法律第175号)にもとづき、農林水産大臣が制定しています。

(注)本書記載の建築坪単価は、あくまでも目安です。実際の建築費は、延べ床面積、地盤の状況、設備等によって異なります。また、設計・監理料、および消費税を含むものと含まないものがあります。





## 三重で家を建てるなら「三重の木」で

我が国は資源に乏しいため「もたざる国」といわれてきました。

しかし、こと森林に関しては、木材として利用可能な資源が充実してきており、世界でも有数の「もてる国」へと変貌しました。にもかかわらず、住宅建設に欠かせない木材の八割近くを海外からの輸入に頼っています。

利用されなくなつた森林は手入れがなされず、伐採、植林、保育のサイクルが循環しないことにより、森林がもつ地球温暖化防止や、水資源を蓄えるなど多様な機能の発揮にも支障を来しています。

このように日本の林業は今、輸入材の台頭や後継者難によって苦境に立たされています。かけがえのない森林を、守り育てるために、われわれができることは、積極的に近くの山の木を使うこと。

三重で家を建てるなら、品質の確かな地元材「三重の木」で。

### 「三重の木」利用推進協議会

三重県津市桜橋1丁目104

TEL.059-228-4715 FAX.059-226-0679

<http://www.mienoki.net>

三重県産木材を使う  
住まいのご相談は